

中学生以上

全住民アンケート 分析レポート

実施時期 : 2023年6月 昨年6月に実施した神納東地域の中学生以上全住民を対象としたアンケートの調査結果です。有効回答率については91.7%と非常に高い結果となりました。ご協力ありがとうございました！

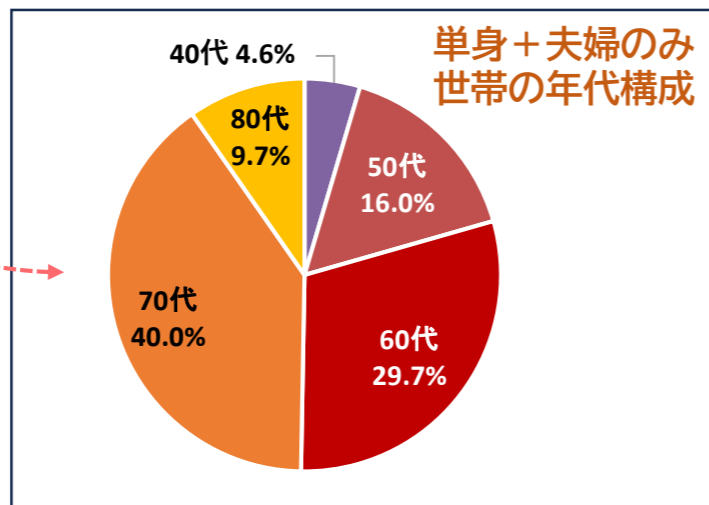
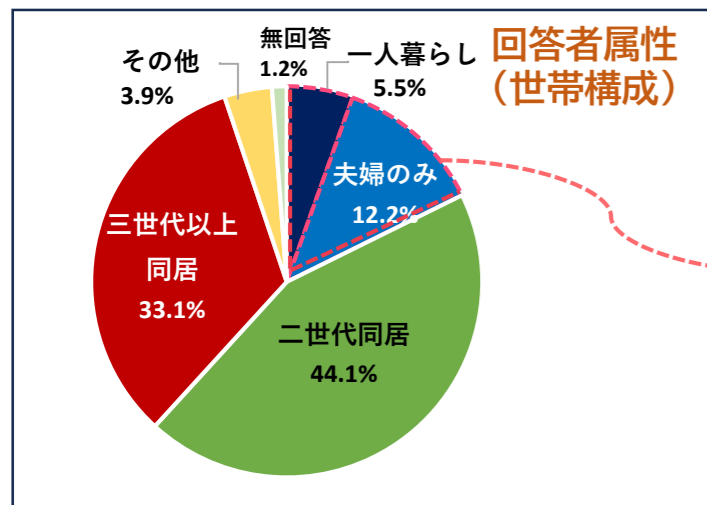
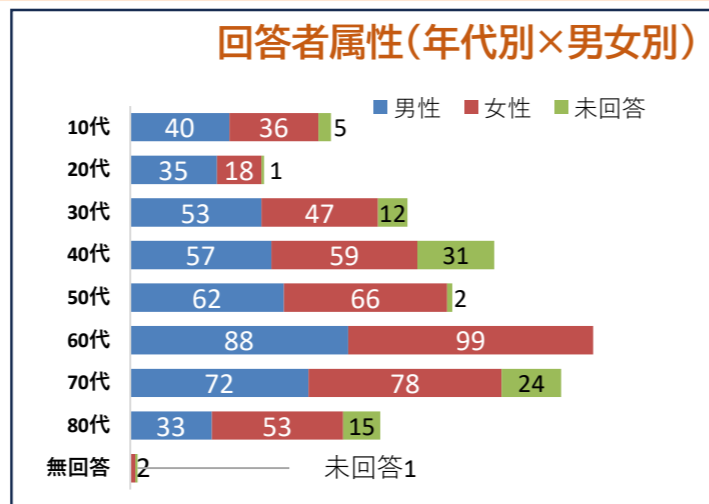
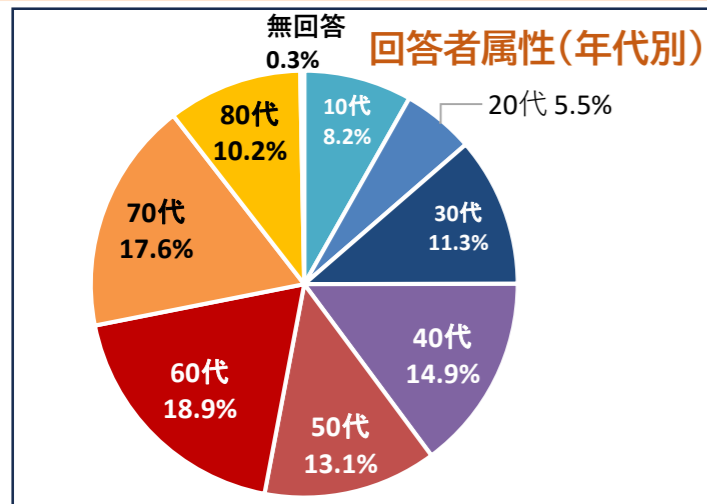
神納東地域まちづくり協議会会長より

日頃より当協議会の活動にご協力いただきありがとうございます。また、たくさんの方からアンケートのご回答をいただきありがとうございました。皆さまからいただいたご意見を真摯に受けとめ、今後のまちづくり活動に活かしていきます。これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会長 八藤後 瑞枝

★アンケート結果について★

回答数の多い年配層の意見が色濃く反映されるため、数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、**世代間の意識の違い**を浮かびあがらせています。



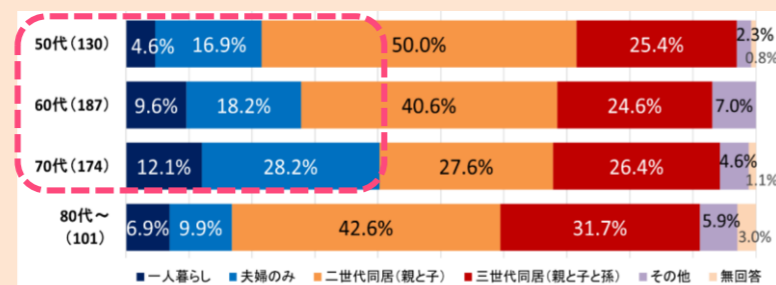
単身+夫婦のみ世帯の年代構成をみると…**79.4%が60代以上**

単身+夫婦のみ世帯の**大半が高齢世帯!**

家族で担っていたことが、この先難しくなってくる可能性がある

※括弧内の数値は回答者数

50~70代の2~4割は単身もしくは夫婦のみの世帯

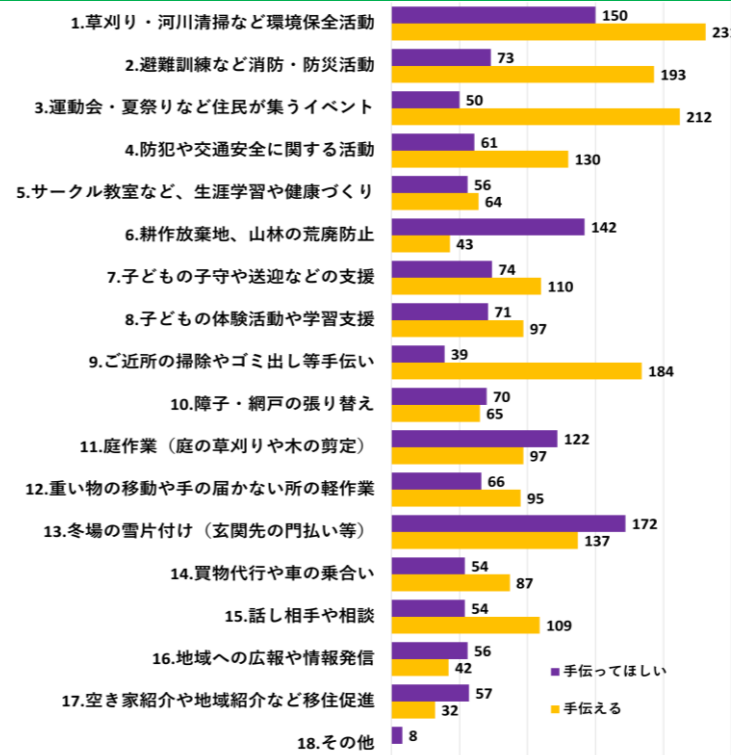


Q これからの将来を見据えてこの地域の地域づくりにおいて大切だと思うものは?

★トッ73★

- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする (全世代で1位)
- ②安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく
- ③思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする

手伝ってほしい/手伝えること



Q 地域内で手伝ってほしいこと手伝えることはなんですか?

大半の作業項目で

手伝ってほしい<手伝える

共助の担い手となる住民は潜在的にかなりの人数がいる!

お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある!

まちづくり協議会に対する期待・要望・ご意見

- ・もっと住民主導で活動していくべき。まちづくりの活動がどれだけ必要で自分たちがやらなければならないものか知ってもらわなければならないと思う。
- ・何をしている協議会なのか全然分からない。今後のまち協の在り方について集落住民で話し合える機会を作ってほしい。
- ・いつまでも5つの地域で考えるのではなく、神林地域全体で考えていかなければならなくなっていくと思う。
- ・協議会を統合してしまうのはいかがでしょうかと思う。会場が遠くなれば参加者も減る。近くの人との交流が少なくなるのは寂しく感じる。

分析レポートはいかがでしたか? 調査結果は35ページにも及ぶレポートになったため今回は、皆さんへ”特に知っていただきたいポイント”をピックアップしました。人口減少がさらに進む将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方や活動内容を見直し、負担軽減を図っていくことが不可欠です。そして困難とも思える地域課題解決の中に「楽しい・うれしい・面白い」これらを見出しながら活動していくことが、まちづくり協議会にも集落にも必要になってくると思います。

Q この地域に愛着がありますか？

地域全体では**6割以上**が「地域に愛着がある」



- ▶ 10代で「地域に愛着がある」は約6割
- ▶ 20～40代女性の愛着度は4割前後。20～40代男性の愛着度は5～6割
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、20～40代女性の地域への愛着度が低下している

Q 今後もこの地域に住み続けたいと思いますか？

「この地域に住み続けたい」は地域全体で**6割以上**

- ▶ 10代は「住み続けたいと思わない」が2割以上と全世代で最多
- ▶ 20～40代女性の定住意向は3～4割と低め（ただし「わからない」も4～5割）
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、10代男性と20～40代女性の定住意向が大きく低下

Q 自分の子どもにもこの地域に住み続けてほしいと思いますか？

「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で**4割以上**

- ▶ 10代と20～40代女性は「住み続けてほしい」が2割前後
- ▶ 40代以下は「わからない」が約半数
- ▶ 前回調査（H29）に比べ10代男性・20～30代女性・40代の子どもへの定住希望が大きく低下

「わからない」が多いということはこれからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低のは**将来への希望・安心感が足りていない**ことが要因！？



Q この地域での日々の暮らしで心配なこと不安に感じていること

★トップ5★

- ① 自分自身の健康面
- ② 屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③ 災害への備えや避難など防災・安全
- ④ 農業を営む環境や農地・山林の維持管理
- ⑤ 安定して収入が得られるか



◀ 特定の年代で不安が大きい項目 ▶

- 【10代】 進学・就職、通学・学習環境、仲間と集まる場
- 【20～30代】 子育て環境
- 【20～50代】 安定した収入、親の介護
- 【70～80代】 医療・福祉

年代により心配ごとは違うが**地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている**



Q 地域活動に関心がありますか？

4割以上が関心の有無に関わらず**地域活動に参加している**

- ▶ 30～70代は半数前後が参加
- ▶ 関心あり+不参加はどの年代でも3～6割いる
- ▶ 前回調査（H29）と比較すると、全体的に参加率は微増。10代・20代女性は関心を持っている割合が上昇しているが、20代男性・40代女性は「関心なし+不参加」割合が上昇

Q 休日はいつですか？

20代～50代の働いている世代



土曜日が毎週休み 4割前後
日曜日が毎週休み 6割前後

必ずしも時間に余裕があるから参加している訳ではない。働いている世代は必ずしも土日が休みではない。**多様な参加の方法・工夫・配慮**が必要。また参加することで「どう役に立つのか」が見えないことが参加の障壁に。



Q 集落内・地区内に家族以外で相談相手はいますか？

集落内・神林地区内共に約**2/3**は相談相手がいる

- ▶ 20代女性は7割が集落内に相談相手がいらない
- ▶ 20代女性・80代男性は半数以上が地区内にも相談相手がいらない



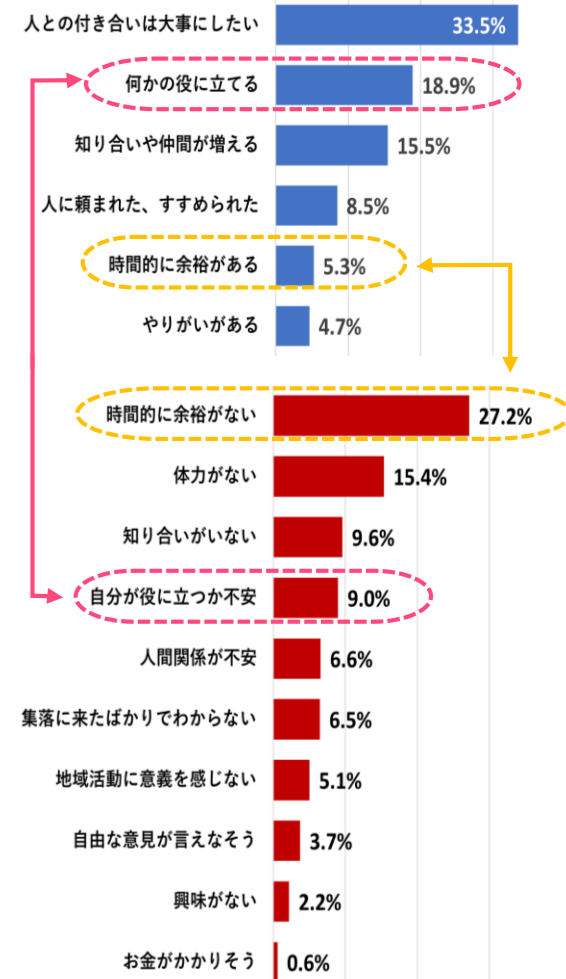
若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？



地域活動への関心（回答理由）

関心の有無に関わらず参加している人の理由

関心の有無に関わらず参加していない人の理由



※回答総数に対しての回答割合（割合が高いほど、多くの人がかっこをつけている）で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。